

## 第6学年 道徳学習指導案

い組 男子19名 女子18名 計37名  
指導者 福留 忠洋

### 1 主題名 反省すること

1-(1) 生活習慣の大切さを知り、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心がける。

### 2 主題について

#### (1) 主題の位置とねらい

この期の子どもたちは、これまでに、日常生活や学校などの生活の中で、自分の生活をよくすることの大切さや、それを改善することで自分の生活がよりよいものになることを理解してきている。また、よりよい生活習慣を築くために身の回りの人の行動や意見を素直に受け入れ、改善していくことが大切であることも理解し行動しようとしている。しかし、思慮不足や自分本意な考えから生活習慣を身に付ける大切さを理解しつつも、自分の生活習慣を改善するために考え方を見直すことの必要感を抱くまでには至っていないことが多い。このようなことから、この期の子どもたちに、自分の考え方にかかわる生活習慣について、思慮深く考えることや自分の生活習慣について省みることの大切さに気付かせ、自分の生活を見直していこうとする態度を育てる必要がある。

本主題では、習慣化している考え方について省みる場面で生じる心情や心情の変化を、自らの生活場面での内面と関係付けて類推しながら追究する活動を通して、自分の生活を見直す際に、習慣化している考えについて改めることの大切さを理解し、自分の生活習慣について見直していこうという気持ちを大切にすることを育てることをねらいとしている。さらには、習慣化している考えについて省み、自分の生活を見直そうとする生き方は、自分を見つめ直し、よりよい生活習慣を身に付け、よりよい自己を形成していくことに繋がるといことよさを実感し、これからの生活に生かしていこうとする意欲を高めていくこともねらいとしている。

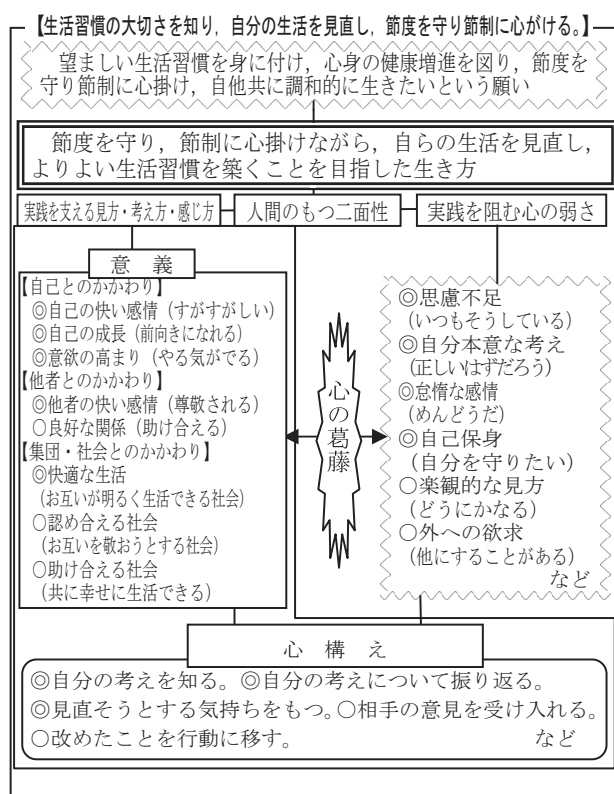
このような学習を通して身に付けた見方・考え方・感じ方は、望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康増進を図り、節度を守り節制に心掛け調和のある生活をする生き方を深く追究していく学習へと発展していく。

#### (2) 指導の基本的な立場

生活習慣の大切さを知り、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心がけることについて、人間のもつ二面性に着目して人間理解を深めるとい立場から分析すると右の図のようになる。

生活習慣の大切さを知り、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心がけるとは、自分自身の生活を主体的に見直すことだけでなく、それらを支える考え方についても見直しながら節度を守り、節制することで生活をよりよくしていくことであると捉えることができる。

ここでは、望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康増進を図り、節度を守り節制に心掛け、自他共に調和的に生きたいという願いの基に、節度を守り、節制に心掛けながら、自らの生活を見直し、よりよい生活習慣を築くことを目指した生き方とし、その実践を支える見方・考え方・感じ方（意義や心構え）と実践を阻む心の弱さの両面から、人間理解を深めていくことになる。具体的



◎は重点的な学習内容

には、生活習慣の大切さを知り、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心がけることで、自己の快い感情や自己の成長につながることを、さらには他者との良好な人間関係を築けたり、明るく快適な生活を築いていけたりすることにつながることを理解させる。また、それらの実現に必要な心構えとして、「自分の考えを知る」「自分の考えについて振り返る」「見直そうとする気持ちをもつ」「相手の意見を受け入れる」ことも理解させる。そして、これらの意義や心構えを深めたり広げたりするために、自分の生活を見直し、よりよい生活習慣を築こうという気持ちをもちながらも、思慮不足や自分本意な考えから、なかなか実践できないことについても理解を深めたり広げたりする。

このような内容にかかわる生き方への共感を高めるために、本主題では読み物資料「『すまへん』でいい」（東京書籍）を取り上げることにした。この資料は次のような粗筋である。

主人公の定やんは、自分の不注意から、親方から大切に扱うように言われていた高価な皿を割ってしまう。どのように謝罪すればよいか迷った末「すまへん。うつわをわってしまいました。お給金から、べんしょうさせてください。」と頭を下げる。しかし、おやじさんは「すまへんでいい」といい、弁償すると言ったことをとがめる。

この資料を扱うに際し、話の内容の理解を深め、主人公の心情に十分に触れさせるために、録音CDや一枚絵を活用する。また、子どもたちの生活場面を振り返らせたりしながら関係付けて類推させるようにし、主人公の心情や心情の変化に自我関与させる。

具体的には、まず自ら立てた課題を追究するために、場面絵を基に、主人公が皿を割ってしまう場面や主人公が弁償を願い出た際の心情に焦点化させる。次に、資料を一読し、おやじさんに主人公の定やんの行為が否定された背景について、**自分の考えを知ったり、自分の考えを振り返ったりする気持ちを自分の生活場面と関係付け、他の見方・考え方・感じ方と比較する場を設定する。**その際、ここでの道徳的価値にかかわる見方・考え方・感じ方を多面的にとらえさせ、深めたり広げたりするために対話活動を取り入れる。さらに、授業の中で感じたことを自らの生活場面と関係付けて考えさせたり、今までの自分の生活と比較させて考えさせてまとめたりすることを通して、生活場面での意欲や態度を高めるようにする。

このような過程を重視する学習を通して得られる能力や態度は、節度を守り、節制に心掛けながら、自らの生活を見直し、よりよい生活習慣を築くことを目指した生き方をしていこうとする喜びや楽しさとなり、そのことが豊かな自分の生き方を追究し続けることにつながると考える。

### (3) 子どもの実態

本学級の子どもたちの生活習慣の大切さを知り、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心がけることにかかわる感情や実践を阻む心の弱さ、実践を支えるための心構え、実践を支える見方・考え方・感じ方（意義）に対する認識は、以下の通りである。

[表1]見直したいと考える生活習慣と見直したい考え方や行為（総反応数37）

見直したいと考える生活習慣	反応数(人)	見直したい考え方や行為	反応数(人)
早寝・早起き	19	思いつかない・わからない	20
生活リズム	10	無記入	10
整理整頓	4	親に甘えてしまう言動	4
食べ過ぎ	1	言い訳をしてしまう	3
自己表現力	3		

[表2]実践を阻む心の弱さについての認識 総反応数(45)

心の弱さ	反応数(人)	心の弱さ	反応数(人)	心の弱さ	反応数(人)
怠惰な感情(めんどろ)	16	自分本位な考え(どうにかなる)	10	思慮不足(つつい)	10
疲労感	5	外への欲求(遊びたい)	4		

[表3]実践を支える見方・考え方・感じ方(心構え)(総反応数38)

見方・考え方・感じ方	反応数(人)	見方・考え方・感じ方	反応数(人)	見方・考え方・感じ方	反応数(人)
あきらめない気持ちをもつ	14	見直そうとする気持ちをもつ	8	決めたことを続ける	5
後先を考える	7	周囲の状況を考える	4		

[表4]実践を支える見方・考え方・感じ方（意義）（総反応数99）

見方・考え方・感じ方		反応数(人)	見方・考え方・感じ方		反応数(人)	見方・考え方・感じ方		反応数(人)
対 自 己	時間を有効に使える	15	対 他 者	楽になる。	10	対 集 団 ・ 社 会	快適な生活が送れる	20
	すっきりする	10		信頼できる。	10		お互いを認め合える	10
	やる気がでる	8		助け合える。	5		幸せに暮らせる	7
	前向きになれる	4						

[表1]から見直したい生活習慣や見直せた生活習慣については、「早寝・早起き」「生活リズム」「整理整頓」といった捉えをもち、基本的な生活習慣を改善することの大切さを理解している子が多い。また、見直したい考え方については、親への甘えや言い訳をしてしまうといった児童が数名いるが、習慣化している考え方について自分なりに気付いている子どもは少ない。また、[表2]から「めんどうだ」「どうにかなる」などといった感情から、生活習慣の大切さを理解し、改善していこうとはしているものの、それらの気持ちを継続してもてなかつたり、それらを妨げる自分の考え方を見直すことができなかつたりすると考えられる。さらに、[表3]からは、「あきらめない気持ちをもつ」「見直そうとする気持ちをもつ」という心構えの大切さを感じている子どもが多いが、それは基本的な生活習慣に関わる心構えとして捉えている傾向が強いと考えられる。[表4]からは、「すっきりする」「相手が楽になる」という意義を感じている子どもが多いことが分かるが、これらは、基本的な生活習慣に関わる意義として捉えている傾向が強い。そこで、自分の考え方にかかわる「見直そうとする気持ちをもつ」などの心構えと「すっきりする」「信頼関係が生まれる」などの意義を十分に関係付けて考えさせたり、生活習慣が行動面だけでなく自分の考え方にも関わっていることを受け入れることのできない心の弱さを対比的に考えさせたりして、自分の考えを知り、振り返ることや自分の考えを見直そうとするこゝのよさを重点的に考えさせていく。

一方、道徳の時間においては、本学級の子どもたちは、登場人物の心情やその背景と自らの生活場面を関係付けてとらえることはできるが、それらを生活経験の異なる子どもと積極的に交流し、自らの道徳的価値に対する見方・考え方・感じ方を深めたり広げたりしようとするまでは至っていない。そこで、道徳的価値のもつ意味を主人公や自らの生活場面と関係付けて考えさせるために、場面絵を使用し、多様な見方・考え方・感じ方について生活場面を想起させながら重点的に考えさせたりすることを通して、学んだことと自分の生き方とのかかわりを意識させながら追究するような働きかけを具体化していく。

#### (4) 指導上の留意点

本主題の指導を展開するにあたっては、生活習慣の大切さを知り、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心がける生き方のよさを子どもたち同士がお互いの見方等を大切にしながら主体的に追究することを通して、実感を深める中で、子どもたちがこれまでの様々な体験で感じてきた道徳的価値にかかわるよさが、これからの生き方へと連続、発展していくようにしたい。

ア この内容にかかわる生き方についての切実な問題意識をもたせるために、生活習慣についての自分なりの捉えを他の見方等と比較して考えさせることで、子ども一人一人が考えていきたい問題を設定させるようにする。

イ 主人公の行為のもつ道徳的価値観について追究させるために、場面絵を基に大切な皿を割ってしまった場面<sup>1</sup>に焦点化する。そして、焦点化した場面でのそれぞれの見方等の背景を表出させ、子ども自らの生活場面での道徳的価値観を明確にさせる。その際、多様な見方等に触れさせるために対話活動を行う。その後、ねらいとする道徳的価値と自らの道徳的価値観を比較して考えさせるために、資料の範読を聞かせる。

ウ これからの生活の中で生かしていこうとする意欲を高めるために、主人公の生き方や設定させた学習問題を基に自分の生き方にかかわる見方等を振り返らせる。その際、書く活動を取り入れ、自らの立てた課題に対する見方等の変容を確かめさせる。また、それらが自分のこれからの生き方の中でどのように場面で生かしていけるか考えさせる説話を<sup>2</sup>行い、期待感をもつことができる場を設定する。

### 3 本 時

#### (1) ねらい

- ア 生活習慣の大切さを知り、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心がけることにかかわる内容についての自分自身の生き方を見つめ、自分の生活や考え方を見直していこうとする気持ちを高めることができる。
- イ 生活習慣の大切さを知り、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心がけることにかかわる見方・考え方・感じ方を他者とのかかわりの中で自らの体験場面での内面と関係付けて、類推しながら深めたり広げたりすることができる。
- ウ 生活習慣の大切さを知り、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心がけることにかかわる内容について、自分の考えを知り振り返る、見直そうとする気持ちをもつなどの意義や心構えの大切さについて自分の生き方とのかかわりを通して理解することができる。

#### (2) 指導にあたって

本時では課題の明確化を目的とした学び合いが重要だと考える。そこで、**皿を割ってしまった場面絵を提示し、その後の行動について問い、「素直に謝る」「どうにかごまかす」「弁償する」などの見方等の表出ししながら、それぞれの違いを明確にさせて展開していく。**

#### (3) 実 際

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
気付く	1 考えていきたい問題に気付く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・早寝・早起き ・生活リズム</li> <li>・親に甘えてしまう。 ・言い訳してしまう。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px; text-align: center;">生活習慣と考え方は関係するだろうか。</div>	8	○ 生活習慣についての自己の捉え方を明確にさせるために、「考え方は習慣化するか」と問い自分の見方等と友達の見方等を比較させ、矛盾や疑問から問題意識を高めさせる。  ○ 「定やんは、この後どうするだろう。」 ○ 多様な道徳的価値観を表出させながら追究させるために、録音CDを用いて前半部分を一読させた後、皿を割ってしまった場面絵を提示し、自由に相手を代えて対話しながら、「素直に謝る」「どうにかごまかす」「弁償する」などのそれぞれの心情やその理由について、自分の見方等と他の見方等を比較させる。 ○ 定やんの謝罪をとがめたおやじさんの心情と定やんの心情の変化やその背景、さらには場面絵を通して捉えた自分なりの見方等を関係付けて読み取らせるために、録音CDを用いて後半部分を一読させ、おやじさんの発言を支える道徳的価値観について焦点化し、話し合わせる。 ○ 「弁償することは間違っていないのでは」と問い、定やんが申し訳なく思った自分の考えの甘さや「自分の考えを見直していくことの大切さ」「さすががしさ」や「お互いを敬える」などの意義や心構えと自分の生活場面と関係付けて考えさせる。
	↓ さぐる		
↓ 見つける	3 学習したことを振り返り、自分でやろうと決めたことは、最後までやりとげることについて、自分なりの考えをまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px; text-align: center;">自分の生活は、自分の考えや行動を振り返ることで、よくなっていくんだな。</div>	6	○ 新たに加わった道徳的価値についての見方等を基に、自己の生き方について振り返らせるために、自分の見方等が明確になった場面や他の見方等を振り返らせ、ノートに記入させる。
↓ 深める	4 生活習慣の大切さを知り、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心がけることについて教師の説話を聞く。	3	○ 学習したことの価値付けとこれからの生き方について期待感をもたせるために、説話を行う。
↓ 見通す			